

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 9 回高松市創造都市推進懇談会（U 4 0 / 第 5 期）
開催日時	令和 4 年 1 0 月 1 7 日（月） 1 8 時 3 0 分～ 2 0 時 4 5 分
開催場所	高松市役所 1 1 4 会議室
議 題	「高松市通信簿の結果分析」
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	穴吹委員、湯川委員、二川委員、熊野委員、大石委員、三木委員、棟近委員、中村香菜子委員、西森委員、宮武委員、若林委員
市職員 U 4 0	佐々木、四宮、齊藤、三好、平岡、香西、藪下
政策課	好井補佐、前場企画員
事務局	平井補佐、岡本係長、伊藤主事
傍 聴 者	0 人 （定員：5 人）
担当課及び 連絡先	産業振興課 創造産業係 8 3 9 - 2 4 1 1

審議経過及び審議結果

1 開会

（事務局から開会挨拶）

（政策課挨拶）

2 「高松市通信簿の結果分析」について

【会長】

第 5 期 U 4 0 も残すところ 2 回となり、次回は市長を招いて、分析結果や意見を報告する予定としている。今日は、その前段階として、皆様に回答してもらった担当設問の分析内容及び意見、感想を発表してもらい、全体会議で共有していきたい。

3 設問ずつ担当者が発表し、質疑応答や意見の発表という流れで進めるので、この部分は統一した方が望ましいなどの全体的な視点はもちろん、個人的に面白いと思った等の感想等を各委員でメモをとりながら聞いてほしい。

審議経過及び審議結果

【設問1「高松は、これと言えものがある街か?」、設問2「高松の大人達は「街自慢」をしているか?」、設問3「高松は、日本を代表する「海まち」だと思っか?」について担当より発表。担当欠席の場合は代読。】

【委員】

「高松は、これと言えものがある街か?」の設問について。子どもができると、子ども中心の生活になる。高松らしさみたいところで、当事者だから、こういう街にしたいという思いを持ちやすいが、当事者以外の人の意見は、吸い上げられにくいとっていて、高松でどのように当事者として生きているのかが、「これ」というところに繋がっている。声の大きい人が作っていく部分もあるが、子どもが少なくなったら、街が発展しないという気持ちもあり、「これというものに繋がっていない。」というキーワードが印象に残った。

【市役所U40】

「高松は、日本を代表する「海まち」だと思っか?」の設問について。1点の評価が一番多かったということだが、自分も低い評価を付けた。香川町から市役所に通勤していて、海や空や島々をいいなと思うことがあっても、普段は感じない。普段接することは少なく思う。

【委員】

「高松は、日本を代表する「海まち」だと思っか?」の設問について。単に「海まちだと思っか?」という設問だと、違った結果だったかもしれない。日本を「代表する」となると、高松ではないと感じる。

ずっと高松に住み続けているので、高松を評価しづらい。自分の活動で、移住者とか、転勤族の人に会う機会が多いが、多くの人が高松はいいよと言ってくれるので、納得だなとっている。

【設問4「高松は、デートしやすい街か?」、設問5「高松は、SNSで投稿できるネタが豊富な街か?」、設問6「高松の休日の過ごし方に満足しているか?」について担当より発表。担当欠席の場合は代読。】

【委員】

「高松の休日の過ごし方に満足しているか?」の設問について。3~4点が多く、全体的に平均的な感じである。休日といえ、高松という感じではないのだろう。

【委員】

高松はソフト面が弱いと感じた。インフラ的にはかなり整っているが、街に対する愛着は弱い。愛着を育てることが、今後必要になってくる。子どもも街に愛着を持つと将来帰ってくるのではないか。それが街の、これから先の未来へ繋がるのではないかと思う。

【市役所U40】

「高松は、デートしやすい街か」という設問で、3点から5点の方が1番多かったのは、個人的にも納得だったが、10点をつける層が一定数いたことに驚いた。この10点を入れる人が、高松が一番楽しんでいる層だと思っので、どういデートをしているか、この人たちのデートプランを見本のような感じにしたら、SNSを投稿できるネタが豊富な街とか休日の過ごし方の満足にも

繋がると思う。

【設問 8 「高松の男木島・女木島に行きたい度は？」、設問 10 「高松の塩江温泉に行きたい度は？」、設問 12 「高松は、芸術活動が盛んだと感じるか？」について担当より発表。担当欠席の場合は代読。】

【市役所 U40】

ジェンダーや子どもの有無でこれ程アンケートの回答に差が出ると想像していなかったもので、そのような観点からアプローチするのが面白いと思った。

高松市は、インフラとかハード面に関しては、とても充実していると思うので、あとはそれを発信する力、例えば行政として、SNS 発信を強めるとか、インフルエンサーになるような個人企業などとタッグを組んで、もっと発信力を強化していけば、ハードウェアやインフラ面の設備投資に対しても今後もっと伸びていく可能性があるのではないかと感じた。

【委員】

「高松の塩江温泉に行きたい度は？」と「高松の屋島に行きたい度は？」の設問に関して。仕事のイベントで、屋島でおでんを週末に販売しているが、多くの方に来ていただいている。普段屋島に行かない人も、イベントがあれば、行こうという気持ちになってくれる。塩江温泉も同じで、塩江に行きたいと思う何かがあれば足を運んでくれて、塩江っていいなと感じてもらえるのではないか。屋島にも、おでんをきっかけに来てもらって、夜景がきれいだなと思ってもらえれば、屋島のためにもなる。そういう絡め方もできるのではないかと考えた。

【委員】

1つの課題としてあるのは、イベントを毎週末するとなると、費用面も人手の面でも大変なので、どうやって事例としてやっていくかというのは、今後課題になってきており、皆が悩んでいることだと思う。

行政が打ち出して実施するのではなく、そこから先は民間に任せるようなネタを考えていかないと大変なことになるのが悩みどころ。ネタを考え続ける、イベントをやり続けるのはとても大変である。

【設問 13 「高松はアーティスト活動を仕事として生活したいと思えるか？」、設問 14 「高松は日常で伝統工芸を感じる街か？」、設問 15 「高松での生活に、家族、友達の助け合いを感じるか？」について担当より発表。担当欠席の場合は代読。】

【市役所 U40】

女性の方が文化面での評価が高いという分析がある中で、「高松は日常で伝統工芸を感じる街か？」の設問で、35歳代になると、感じている割合が高いというのが気になった。普段、触れている、触れていないが関係するのではないか。

外に出て、人が多いところで生活している人が、そういうケース活動が多いのかもしれない。ネットの情報ではなく、肌でアーティスト活動とか芸術活動とかを感じているのではないか。

【委員】

余談になるが、まち歩きのガイドをしていて、セーラームーンとコラボした香川漆器が発売されていると聞いて不思議だったが、35歳になると伝統工芸

を感じている人が多くなると聞いて、データに忠実に商品化していたのだと感じた。

【市役所U40】

「高松は日常で伝統工芸を感じる街か？」の設問の結果が面白いと思った。年代別で、15～19歳の割合が高いと聞いて、高松市は学校向けに伝統工芸の教室を開いたりして、身近に感じる環境を作れているのではないかと思った。

また、他の委員が言われていた、アンケートの中に改善が載っているというのが印象的で、今回のような直接のご意見を、改善に繋げていければと思う。

【設問16「高松は子育て世代が暮らしやすい街か？」、設問17「高松は、外国人が暮らしやすい街か？」、設問21「高松は、参加したい地域のイベント・コミュニティ活動がある街か？」について担当より発表。担当欠席の場合は代読。】

【市役所U40】

「高松は子育て世代が暮らしやすい街か？」の設問について。今回の通信簿全体を通じて、子育て世代への支援が少ないというのが、浮き彫りになったのではないかという印象を受けた。

姉がいるが、結婚して、家をどこに建てるかとなった時に、おむつの無料配布等子育て支援が手厚いということで、三木町を選んだ。市内人口が1人減っただけでなく、産まれてくるこどもも三木町の住民になる。少子高齢化の中で子どもを産んでもらう世代の方々たちにとって、魅力ある市になっていかないといけないのに、そこが欠けているような要素があるのではないか。何か支援・施策を打たないといけないと思った。

【市役所U40】

「高松は子育て世代が暮らしやすい街か？」の設問について。子どもがいないので、子育て世代が暮らしやすい街というのがどういう街かと聞かれても具体的には出てこない。通信簿の自由記述欄で明石市に触れている回答が多かったので調べてみると、明石市のHPは何に力を入れているのかが分かりやすく、産む側も安心するだろうと感じた。子育てや教育は未来に向けて大事な部分なので、もっとお金をかけてほしいと思う。

【委員】

当事者でないと分からないという意見に関連して、例えば、うどんが嫌いな人でも、色々なところにポスターがあったら、高松はうどんがおいしい所だと分かる。当事者でないと分からないではなくて、当事者でない人が分かるような施策をしないと。当事者だけが、暮らしやすい、配慮してもらっているだけでは駄目なのだと気づいた。

【設問22「高松は、農業に従事したいと思える街か？」、設問17「高松は、地産地消を感じられる街か？」、設問23「高松は、バスや電車など公共交通が充実していると感じるか？」について担当より発表。担当欠席の場合は代読。】

【委員】

和歌山から香川に来て7年経つ。和歌山にいた時は、電車によく乗っていたが、香川に来てからどこへ行くにも車が必要で、公共交通機関を利用しなくなった。10代とか、免許を取る前の方が不便と感じる部分もあると思う。移住

前は、公共交通機関を使っていた人でも、移ってくると車の方が便利だと思いがちなのだと感じた。

【委員】

「高松は、農業に従事したいと思える街か？」という設問について。Iターン、Uターンで農業をやる方が多い印象を持っていたが、この通信簿の結果では、従事したい職になっていないという結果で、仕事としての魅力度が低い、非常にハードルの高い職業になっているという印象を持った。

【委員】

「高松は、農業に従事したいと思える街か？」という設問について。高松に移住して、農業を始めて8年になるが、郊外がメインになるので、保守的、排他的な印象はある。また、「高松は、地産地消を感じられる街か？」の設問について、地産地消という言葉は何十年とあるが、実際、実現しているかという疑問なところである。しかし、コロナ禍になってから、物流・輸入が止まったり、コストが上がったりして、大手のお店でも、地産地消のコーナーを拡大している傾向が非常に強い。外的要因ではあるが、地産地消を感じられる街になっていく傾向があるように感じる。高松もうまく波に乗れば、何か新しいことができるのではないか。

【委員】

「高松市は、食文化の多様性を感じる街か？」という設問に関して、全体的に点数が山なりに分布していたと思う。また、街中メインで、U40委員が声をかけたということもあり、全体を通して国道11号線以北の回答者が多く、バイアスがかかっているのではないか。3点から4点位の低めにつけた人もいて、その層を底上げしていく必要はあるだろうし、郊外に住む人たちにアンケート取ったら、また結果が変わってくるだろう。食文化の多様性を街中でアンケートしたのだったらもっと高くあるべきではと思う。ここで高く取れなかったら、郊外まで広げた時に低くなるという予想は、容易につく。

【設問26「高松は、優しい運転がある街だと思うか？」、設問27「高松は、交流が生まれやすい街か？」、設問28「高松は、住み続けたい街か？」設問29「高松は、あなたが移住やUターンをお勧めしたい街か？」について担当より発表。担当欠席の場合は代読。】

【市役所U40】

「高松は、住み続けたい街か？」という設問に関して、在住歴5年が点数の分かれ目になっているのは、何がポイントになっているか。ある程度諦めも入ってからの、まあよいでしょうという感じになってくるのだろうか。

【会長】

全体通して思うことや次回の最終回を見越して、改善した方がよいことと、統一した方がよいのではというところがあれば共有したい。

【副会長】

点数や分野に近い設問の相関関係等も踏まえて、総合評価していければと思うので、各委員が一旦持ち帰り、関係性を見つけて意見を作成していくという作業は面白いのでは。

【会長】

各委員、1設問程度なので、深掘りする作業をしてほしい。また、分析の欄に私見が入っているパターンもあったので、私見と分析した客観的事実を分けてほしい。

次回については、市長を招いてフリーディスカッションをメインにしたいので、報告書については、事前に市長に見ておいてもらう方がよいかもしれない。

【副会長】

報告書をどのような構成にするかを説明すると、まず、第5期U40の前半で考えたキャッチコピーを記載し、後半の部分で、今回の通信簿（アンケート）の分析内容、意見、担当委員の名前を記載したい。最後に、総合評価という形で、「こういったことが言えるのでは」という内容を記載する。市長には総合評価の所と、気になった個別の質問は事前に見てもらい、ディスカッションしたい。

【委員】

次回までに集まる機会もないので、総合評価の部分話し合っではどうか。

各委員が、今回の議論を通じて、全体として見たときに感じることを書き留めてもらうとか、それに対してどう思うか、どういうふうにしたらよいかと考えているかということをもとめられたら、総合評価のところ、1人だけの意見にはならないと思う。

【副会長】

数字やグラフの作成に関しては、ワークグループを作って対応していくが、こういう意見を載せてほしい等があれば発言してほしい。

【委員】

今回の通信簿（アンケート）で情報格差を感じた。様々な施策や制度がある中で、全てを把握しているわけではないので、我々の意見を総論に盛り込んでも、実はもう実施していたということはないだろうか。福祉は情報発信が、観光などに比べて弱く、特定の方（当事者）への情報発信が多かったりするもので、知られていないが、実は既に実施されていたということがありそうだ。

【委員】

当事者になってから知るのでは遅い。子どもを産んでから情報を得るのでは遅い。当事者以外の人に届く情報発信力をぜひ入れてほしい。

【副会長】

情報発信側の課題が大きいのではというところは、ぜひ報告書に盛り込みたい。

【委員】

高松は、住みやすいが、可もなく不可もなく、自発的に動くシステムがない。視点が変わらないと、今あるものを生かせられないと思う。

【副会長】

外からのアクションがないと、変わらないという書き方はできるのではないかな。それが民間側の話か、行政側の仕事なのかは、議論があってもよいと思う。

【市役所U40】

子育て支援の話とか、多くの課題があると思ったが、この点数だけ見たら、高松が好きという点数が全体的に高かったので、高松が好き人が多いと感じた。

【副会長】

今の議論を踏まえて、ぜひ入れたいのは、行政のやり方を問うだけでは、他力本願なので、市役所メンバーは、1人の市民として、民間は、自分たちの生業の中、活動の中で、自分だったら何が出来るか、何かできることを入れてもよいように思う。

【会長】

要望ばかりではなく、自分はこちらするというのもぜひ入れたい。

【副会長】

報告書の最後に欄を作って、2年間の活動を通して、今後自分がどのように、取り組んでいくか、一言添えてみたい。

【委員】

U40委員それぞれの普段の活動を市長は知らないなので、普段の活動を踏まえた意見・要望である分かりにくいのではないかと。

【会長】

U40委員は普段の活動を、市役所U40は、所属する課を書いたほうが、市長だけでなく、報告書を見る一般の人にも親切だと思う。

【委員】

インフラ等は整っているが、高松市民は市への愛着度が不足しているように感じる。これから先、子どもたちが成長して高松市に帰ってくるかどうかは、高松で何を体験するかということが大きく関わってくる。愛着に関する部分は盛り込んでほしい。

【政策課】

毎年、本市が行っている「市民満足度調査」においては、若年層の回答率が非常に低調である。

高松市通信簿は、若い世代を対象とした、行政の視点と異なる、独自目線でのアンケートであり、非常に面白い取組である。委員の皆様からの意見やアンケート結果については、現在、策定作業を進めている次期総合計画において、是非、活用させていただきたい。

「市民満足度調査」においても、公共交通の利便性の向上や地域経済の活性化を求める意見は多く、例年満足度が低い。子育て関係や福祉関係の施策は、その後続く。一方で、満足度が高い施策としては、「消防・救急の充実」や「水の安定供給」である。

次回の会議で、アンケート結果を踏まえた提言を報告書として提出いただくということであるが、既に本市が実施している事業であったとしても、その取組手法や情報発信が不十分であるということであるので、率直な意見として、報告書に盛り込んでもらえたらよいのではないかと。

情報発信においては、必要な情報が必要な方に届いていないという指摘もあるので、LINEを活用した情報発信のプラットフォームを構築中である。例えば、子育て支援に興味がある方が、「子育て」にチェックをすれば、その情

報が届くようなシステムを想定している。

本日、委員からいただいた意見として、「当事者に分かる支援や事業の実施は当然とし、当事者でない方にも伝わるような施策の展開や情報発信が必要。」という意見は、非常に共感を持って、改めてその大切さに気付かされた。

また、愛着度や自己肯定感を高めていくことが、重要であるという意見があった。次期総合計画では、「選ばれるまちづくり」、「協働によるまちづくり」、「持続可能なまちづくり」の三つを重点的に取り組むキーワードとしている。「選ばれるまち」になるためには、市民の方に、更に愛着度を高めていく取組をしていかなければならない。市民の満足度や幸せを感じる人の割合を増やすとともに、市外の方にも魅力を発信し、本市への移住や関係人口の創出につながるよう努めていきたい。

【委員】

情報発信に関して、今後、どのような展開を考えているのか。

【政策課】

一つは、プッシュ型でないと、必要な情報が必要な方に届いていないという指摘があるので、まずはLINEの友達として登録してもらうことから始めたい。また、SNSを活用した情報発信についても、その効果を発揮するため、登録者の増加などに努めたい。

【会長】

最終回に向けて、報告書を作成する作業が必要になってくる。情報共有をしながら進めたいので、ぜひ協力をお願いしたい。今回はフリーディスカッション等を楽しんで、第5期を終わらせたい。

3 閉会

(事務局から事務連絡をして閉会)